

東大阪市子ども・若者計画 資料編
～子ども・若者が自由に夢を描けるまち 東大阪～



資料編の位置づけ

資料編は、東大阪市における子ども・若者施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、東大阪市子ども・若者計画の基礎資料として作成したものです。

本市においても人口減少や少子化が進行する中、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化しています。本資料編では、人口動態、結婚や出生の動向、就労状況等に関する統計データを整理し、本市の現状と課題を多角的に把握できるようにまとめています。

本資料編は、計画の背景となる客観的事実を示す資料として位置づけ、施策の方向性を検討する際の基盤資料として活用するものです。

構成

人口動態

1. 「人口」の推移
2. 「年齢3区分別の人口割合」の推移
3. 「0～9歳人口」の推移
4. 「地区別人口」の推移
5. 「地域別人口」の増減
6. 「出生数」と「死亡数」の推移
7. 「人口」の社会増減
8. 「人口」の社会増減（年齢階層別）

出生の動向

9. 「出生数」と「合計特殊出生率」の推移
10. 「世帯数」の推移

多文化共生

11. 「外国人住民」の国籍別割合
12. 「外国籍児童生徒数」の推移

少子化対策

13. 「婚姻数」と「婚姻率」の推移
14. 「未婚率」の推移

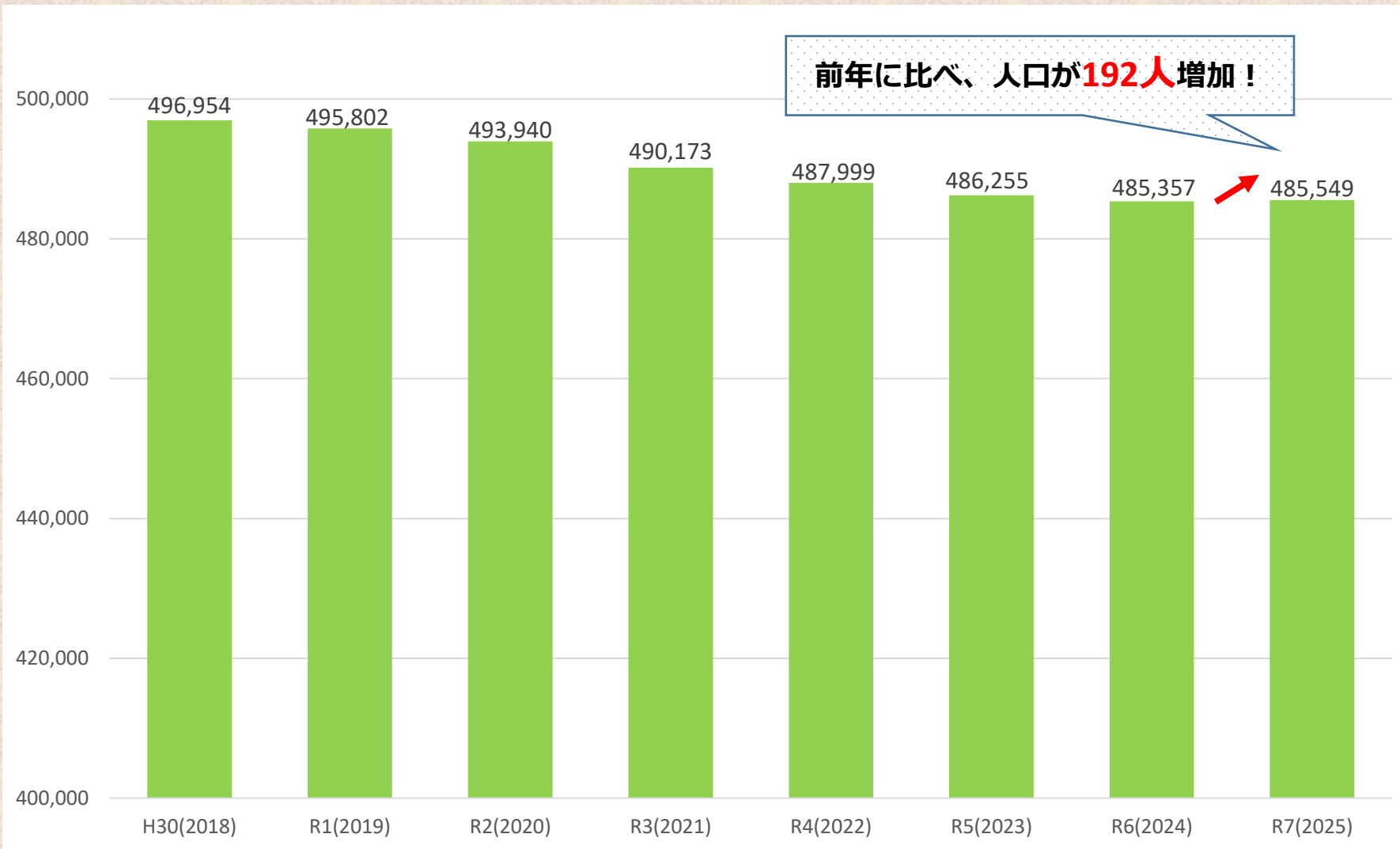
就労状況等

15. 「共働き世帯」の状況の推移
16. 「育児休業制度」の利用状況

参考：本市が抱える課題に関連する数値

1. 「人口」の推移

資料：大阪府毎月推計人口
※各年10月1日時点



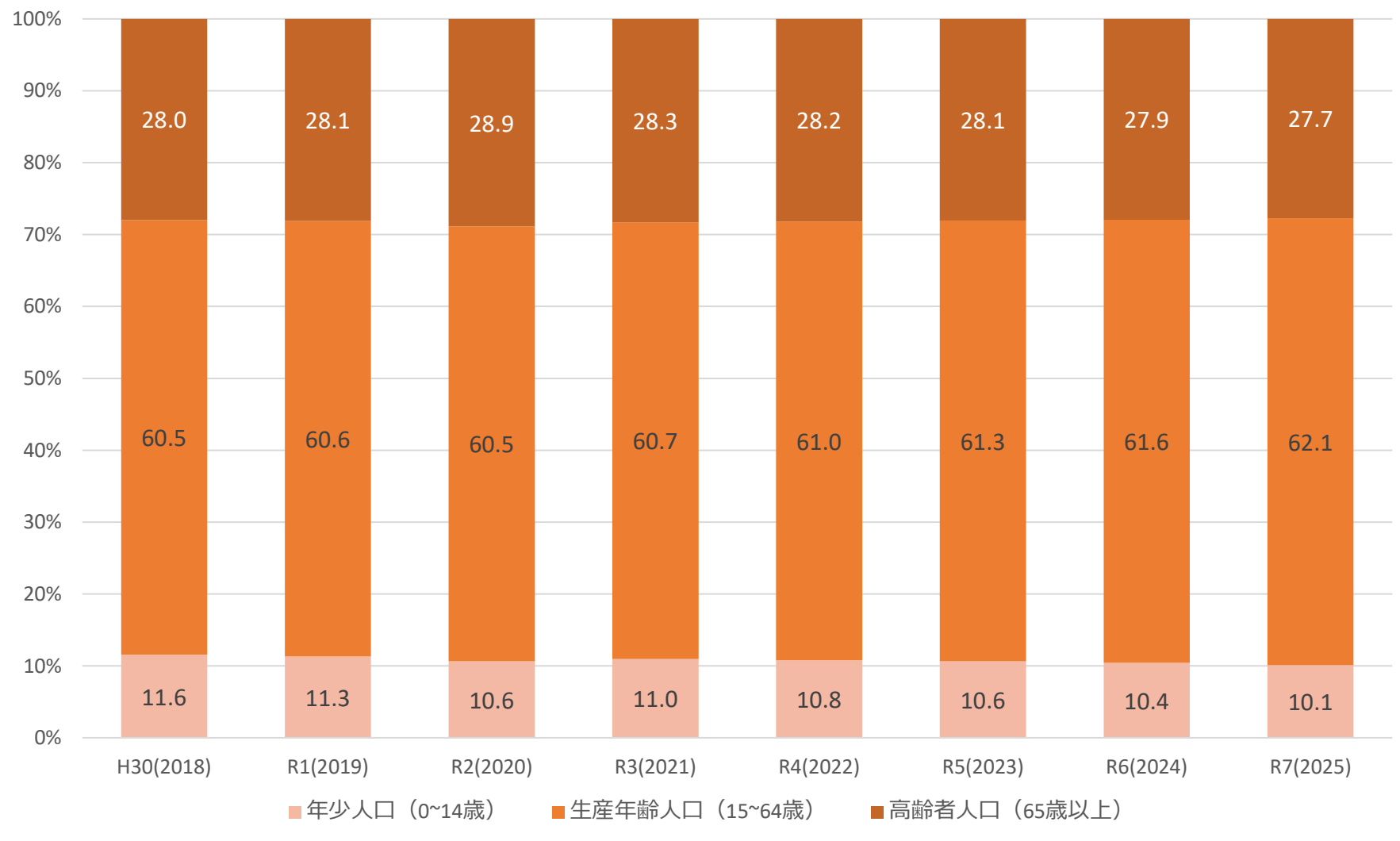
令和7年10月1日時点で、東大阪
市には485,549人が住んでいます。
人口は長らく減少傾向にありまし
たが、令和7年は前年より増加し
ました。

全国では人口減少が進んでいるのに
令和7年には増加したなんてすごいなあ！



2. 「年齢3区分別の人口割合」の推移

資料：大阪府毎月推計人口
※各年10月1日時点



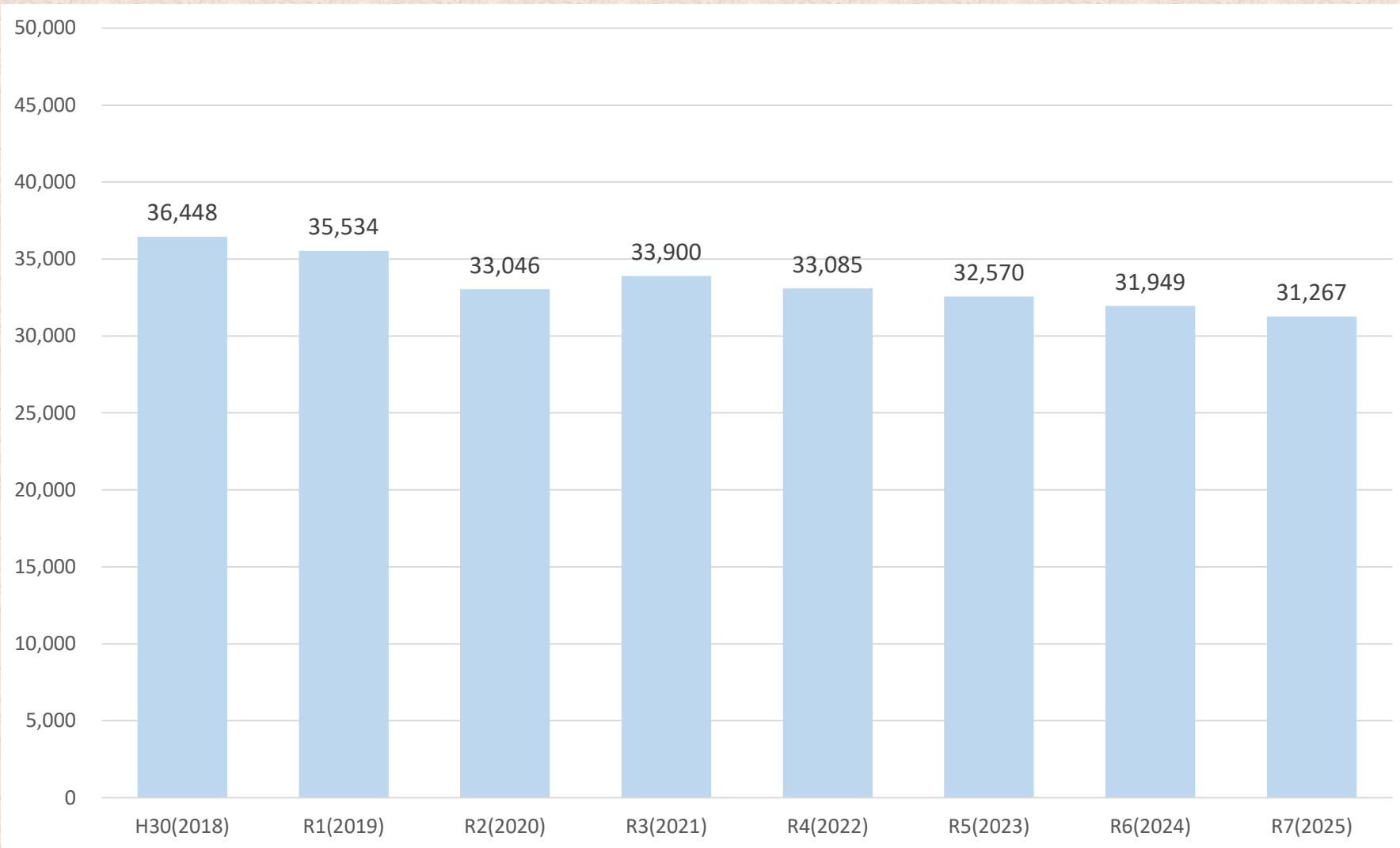
人口を年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、高齢者人口（65歳以上）の3つの年齢区分に分けたグラフになります。生産年齢人口は全国的に減少傾向にありますが、本市においては増加傾向にあります。

15歳～64歳が統計上「生産年齢人口」というのは、“この年齢層が働く中心世代”と考えられているからだよ！



3. 「0~9歳人口」の推移

資料：大阪府毎月推計人口
※各年10月1日時点



0~9歳人口の推移を示したグラフになります。令和7年10月1日時点では東大阪市に住んでいる0~9歳の人口は31,267人です。ここ数年、人口減少の傾向は続いており、平成30年との比較では約5,000人減少しています。

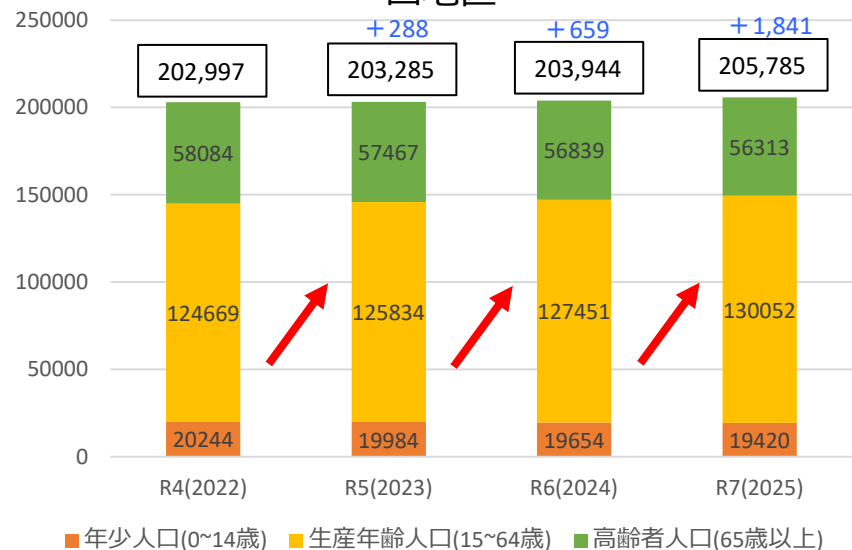
0~9歳の人口をみると減少しているんだね
子どもの数が減ると寂しいなあ...



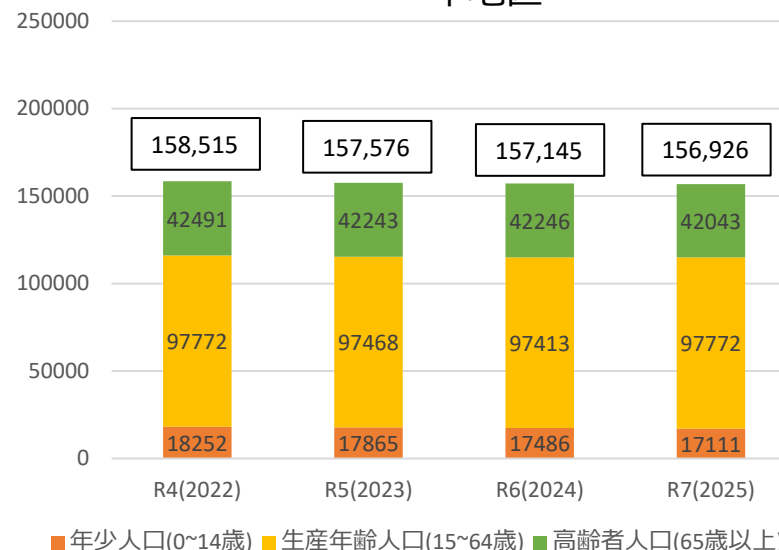
4. 「地区別人口」の推移

資料：住民基本台帳
※各年12月末時点

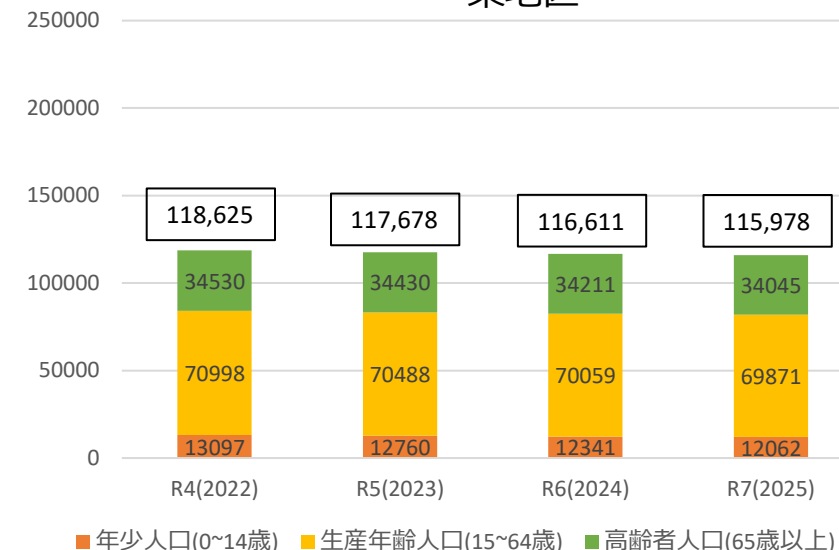
西地区



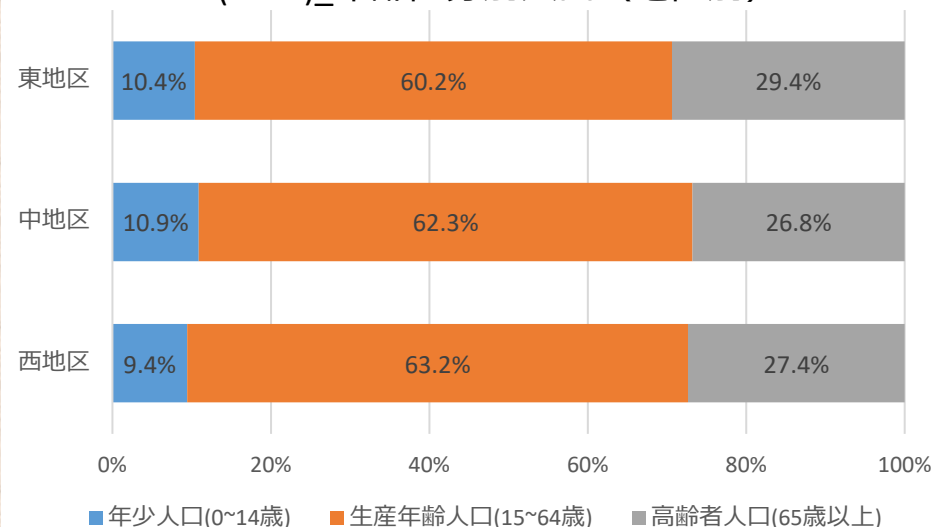
中地区



東地区



R7(2025)_年齢区分別人口 (地区別)



地区別の人口をみると、西地区、中地区、東地区の順に人口規模が多い状況です。中地区、東地区は減少傾向ですが、西地区の人口は令和4年から増加となっています。

西地区は大学がたくさんあるね！
中地区は大阪モノレールが南伸するね！
東地区も生駒山があっていいよね！

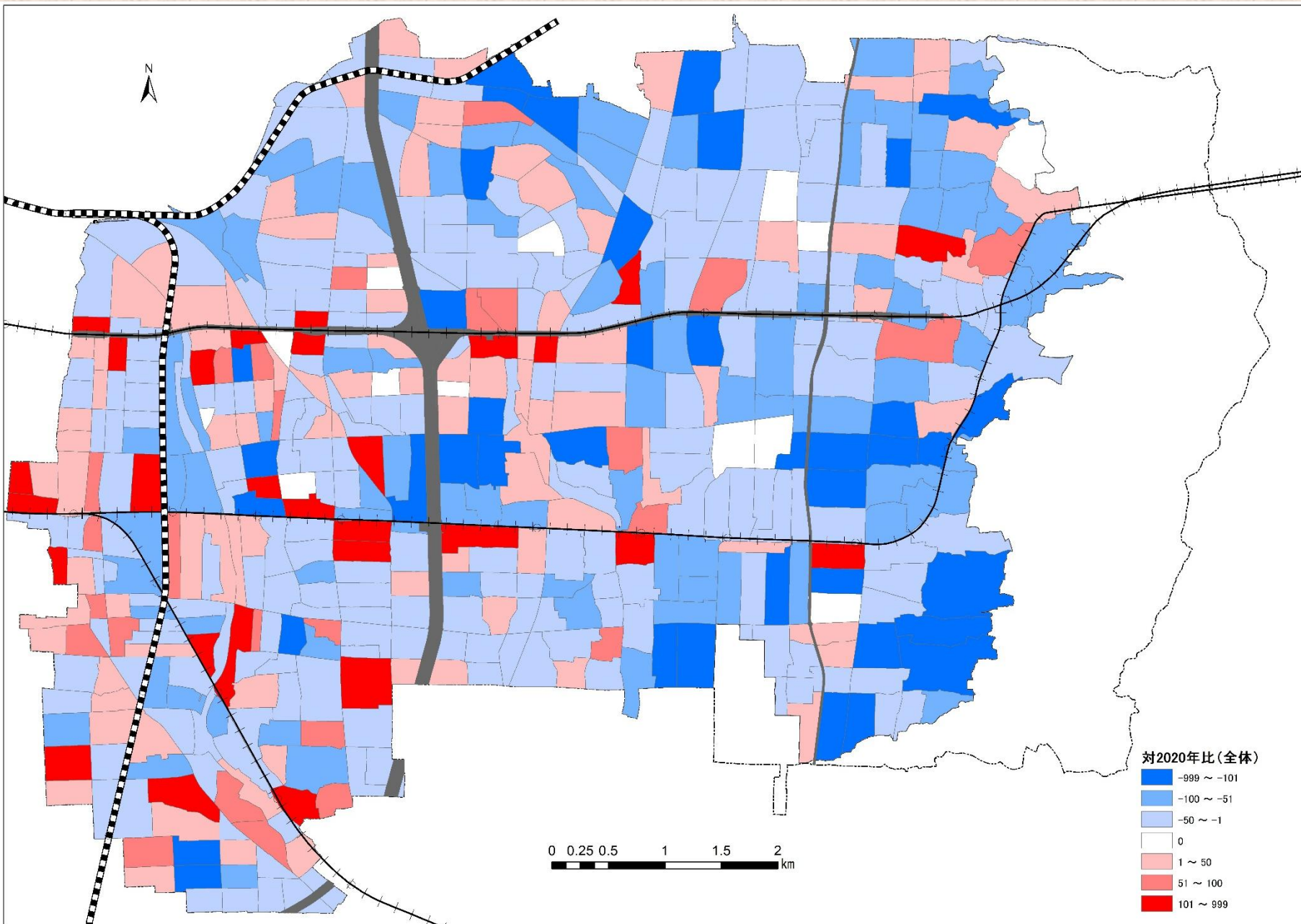


(注) 大阪府毎月推計人口では地区ごとの年齢区分別人口が示されていないため、住民基本台帳データを使用しています。

5. 「地域別人口」の増減

【令和7(2025)年12月末】－【令和2(2020)年9月末】

資料：住民基本台帳

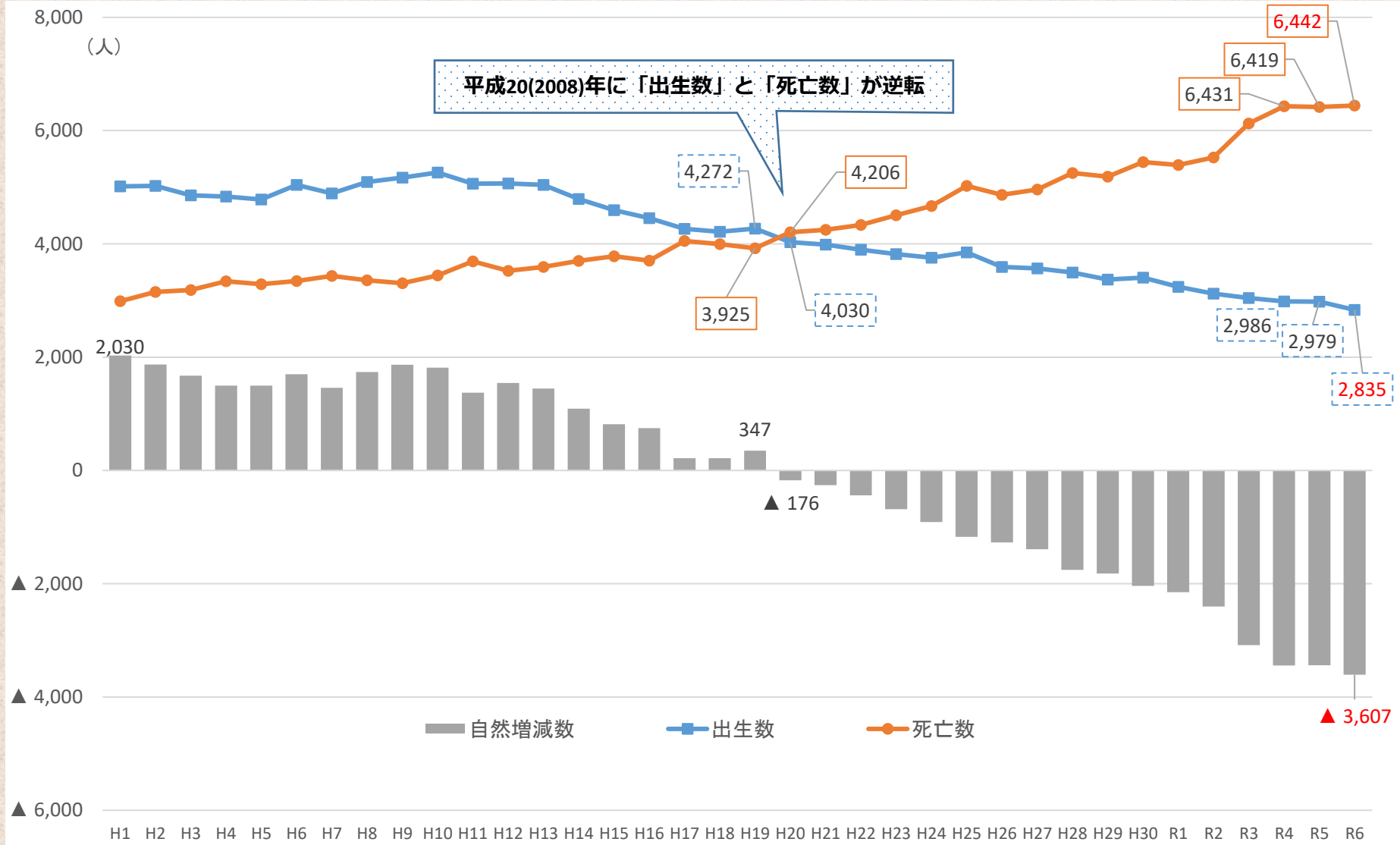


令和2年9月末から令和7年12月末までの間にどれぐらいの人口増減があったかを町丁目別に示した図になっています。増加は赤色、減少は青色となっており、いずれも色が濃くなるほど数値が高いものとなります。

人口の増減を地図で見るとこんな感じになるんだね！
そういえば、濃い赤色のところは新しいマンションが建っていたような気がするなあ



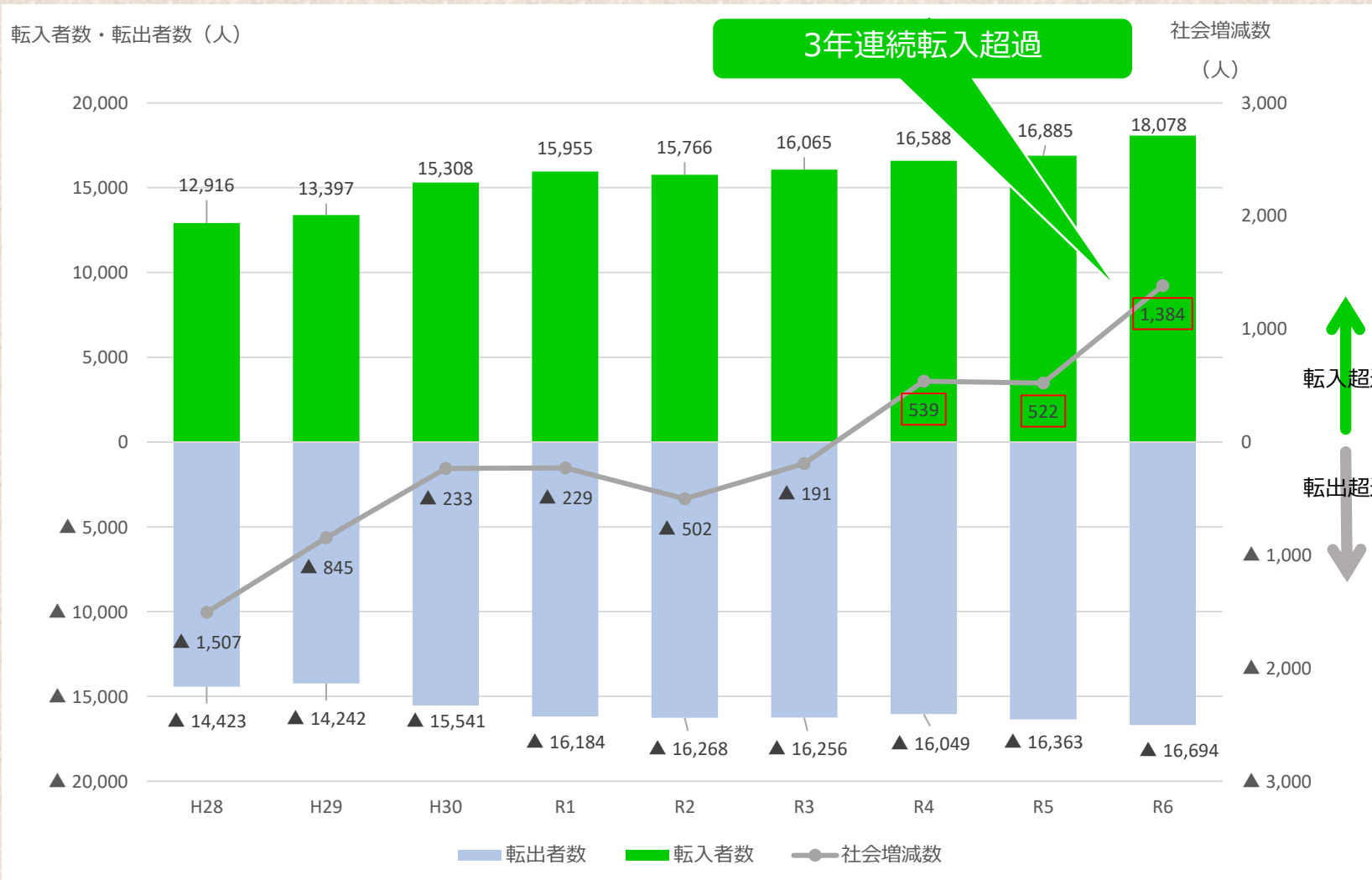
6. 「出生数」と「死亡数」の推移



東大阪市の年ごとの「出生数」と「死亡数」を示したグラフになります。平成19年までは「出生数」が「死亡数」を上回っていましたが、平成20年以後、逆転が生じ、「死亡数」が「出生数」を上回ってしまいました。以後、その幅は広がっています。また、令和4年には出生数3,000人を下回り、令和6年には2,835人となっております。

7. 「人口」の社会増減 (転入 - 転出)

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



転入超過数の内訳(人)

	R4	R5	R6
日本人+外国人	539	522	1,384
日本人	294	455	940
外国人	245	67	444

R6年大阪府内転入超過トップ5

	市町村名	転入超過数 (人)
1	大阪市	16,090
2	吹田市	2,024
3	東大阪市	1,384
4	茨木市	730
5	島本町	666

「東大阪市に転入した人」、「東大阪市から転出した人」を年ごとに示したグラフになります。令和4年以降、転入超過傾向にあり、令和6年には1,384人(日本人940人、外国人444人)の社会増となりました。この数字は大阪市、吹田市に次いで、大阪府下で3番目に多い自治体となりました。

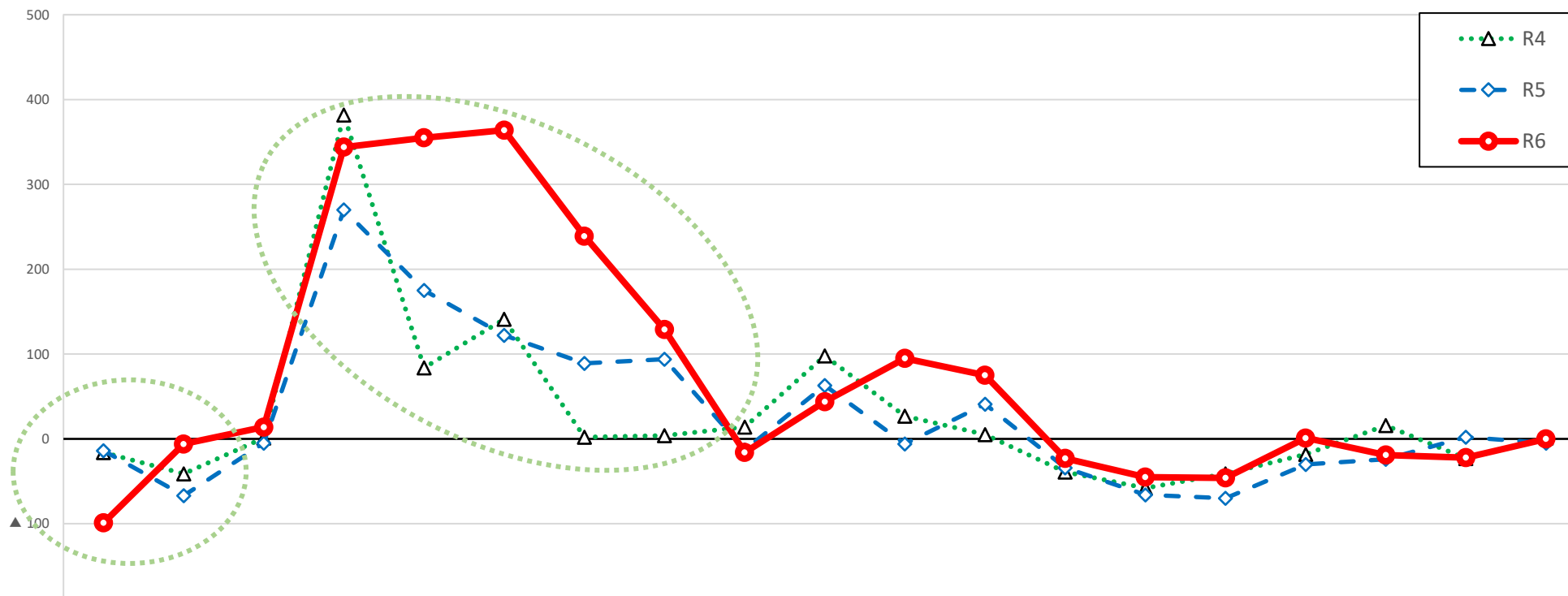
東大阪市に引っ越ししてくる人が増えたんだね！



8. 「人口」の社会増減（年齢階層別）

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

転入超過数（人）（▲は転出超過数）



	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90以上
R4	▲ 16	▲ 41	1	382	84	141	2	4	14	98	27	5	▲ 39	▲ 58	▲ 41	▲ 18	16	▲ 23	1
R5	▲ 14	▲ 67	▲ 5	270	175	122	89	94	▲ 13	63	▲ 6	41	▲ 34	▲ 66	▲ 70	▲ 30	▲ 24	2	▲ 5
R6	▲ 99	▲ 6	14	344	355	364	239	129	▲ 16	44	95	75	▲ 23	▲ 45	▲ 46	1	▲ 19	▲ 22	0

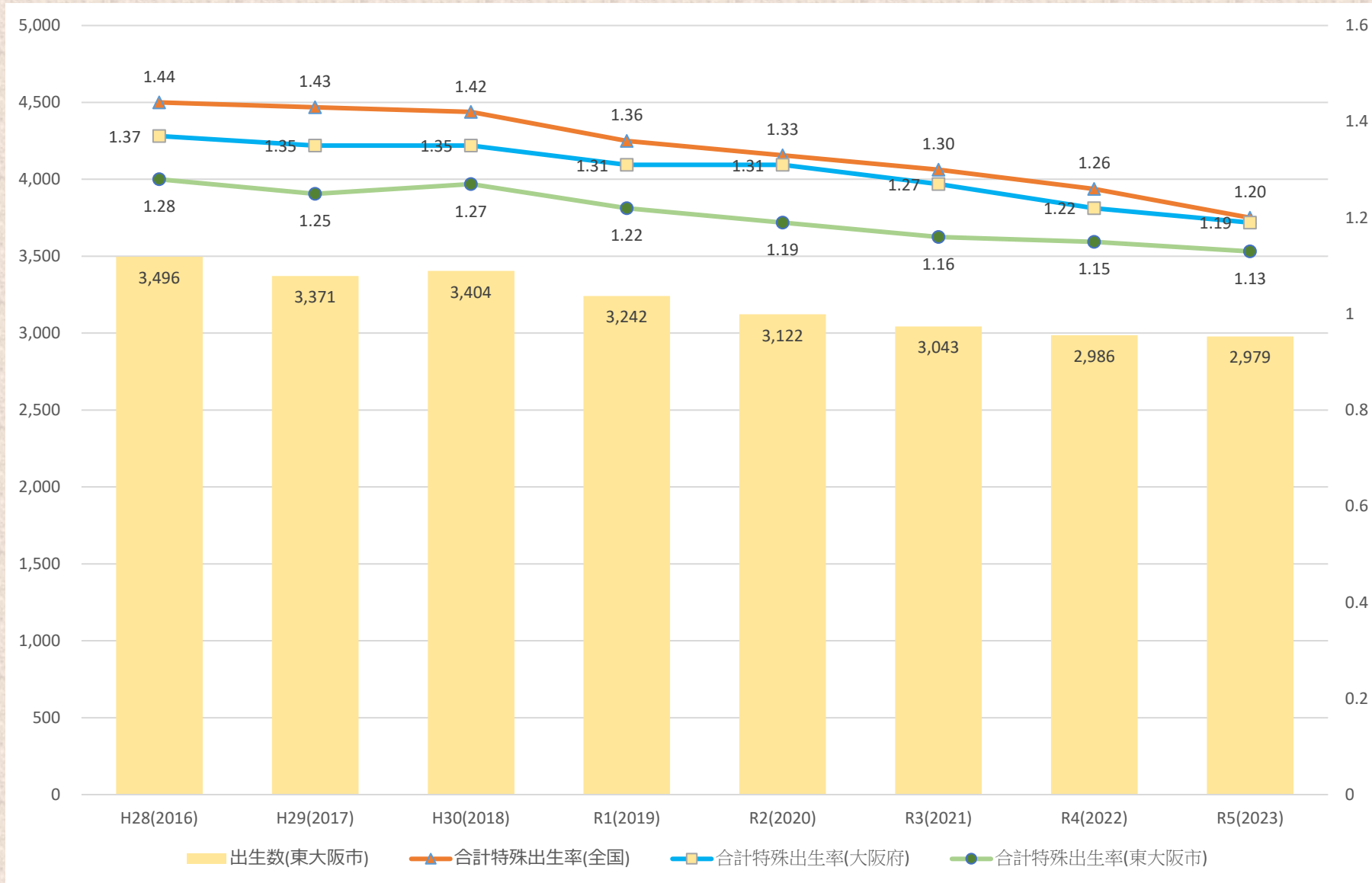
5歳ごとの年齢階層別の転入と転出の差を示した図になります。市内に4つの大学が立地していることから、「15~19歳」の転入増が本市の特徴になります。令和6年には「20~39歳」が大きく増加しました。一方、「0~9歳」は転出傾向にあることから、“子どもファーストのまち”を掲げる本市としては改善が必要になります。

東大阪市は“大学のまち”だから、15~19歳の転入増がすごいね！子育て世代が住み続けたいくなる魅力的なまちをめざさないといけないね！



9. 「出生数」と「合計特殊出生率」の推移

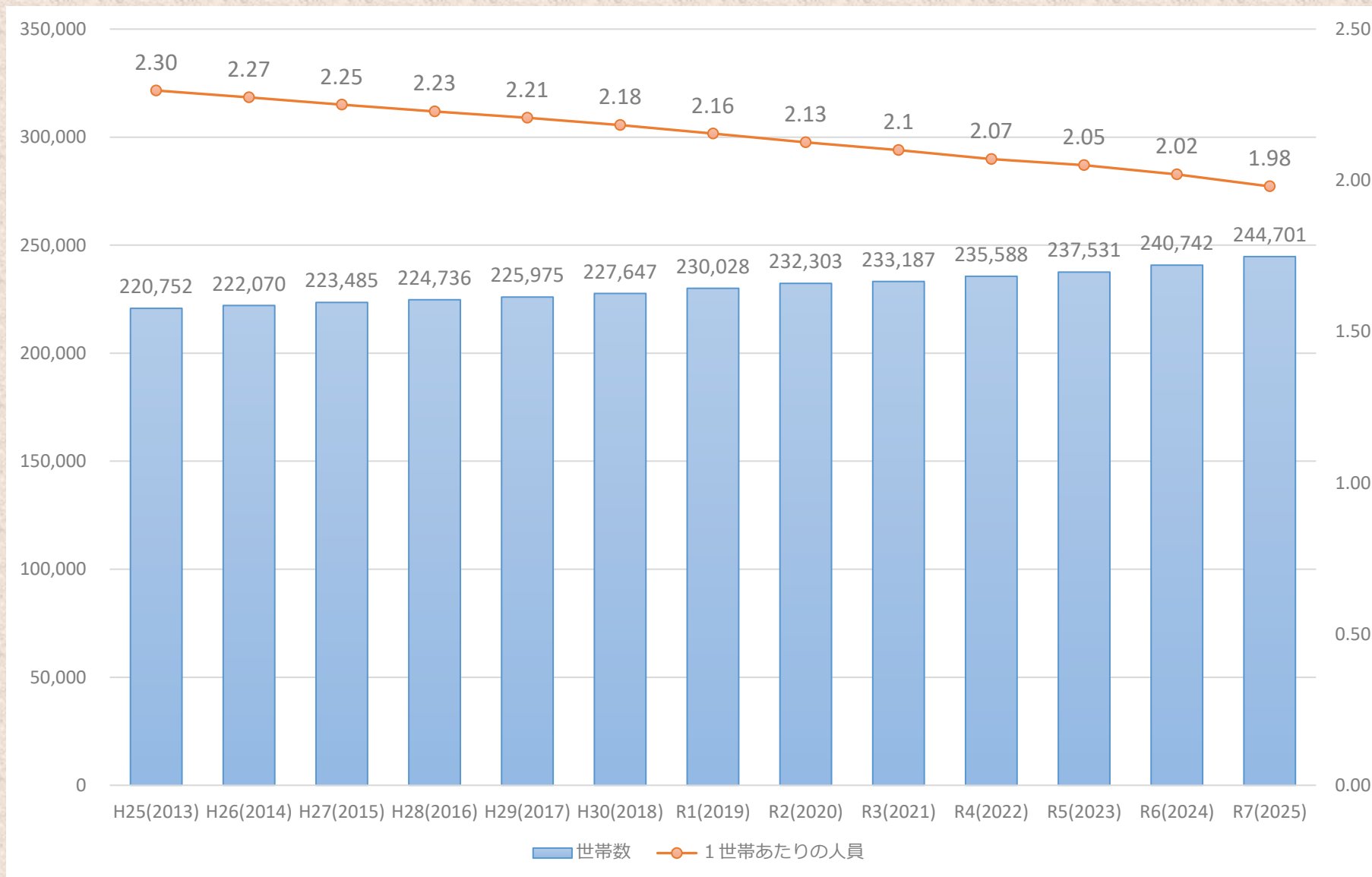
資料：合計特殊出生率は保健衛生年報
出生数は東大阪市統計書



「合計特殊出生率」とは1人の女性が一生のうちに産むと仮定される子どもの平均人数を示す指標です。
現在の人口を維持するためには、合計特殊出生率が2.07以上を保つことが必要とされています。
東大阪市の合計特殊出生率は令和5年には1.13となっており、全国や大阪府の値に比べ低い値となっています。

10. 「世帯数」の推移

資料：大阪府毎月推計人口
※各年10月1日時点



「世帯数」と「1世帯あたりの人員」の人員を示したグラフになります。
世帯数は年々増加しており、令和7年10月1日現在では244,701世帯となっています。一方で、1世帯あたりの人員は減少傾向にあり、「核家族」化が進んでいることがわかります。

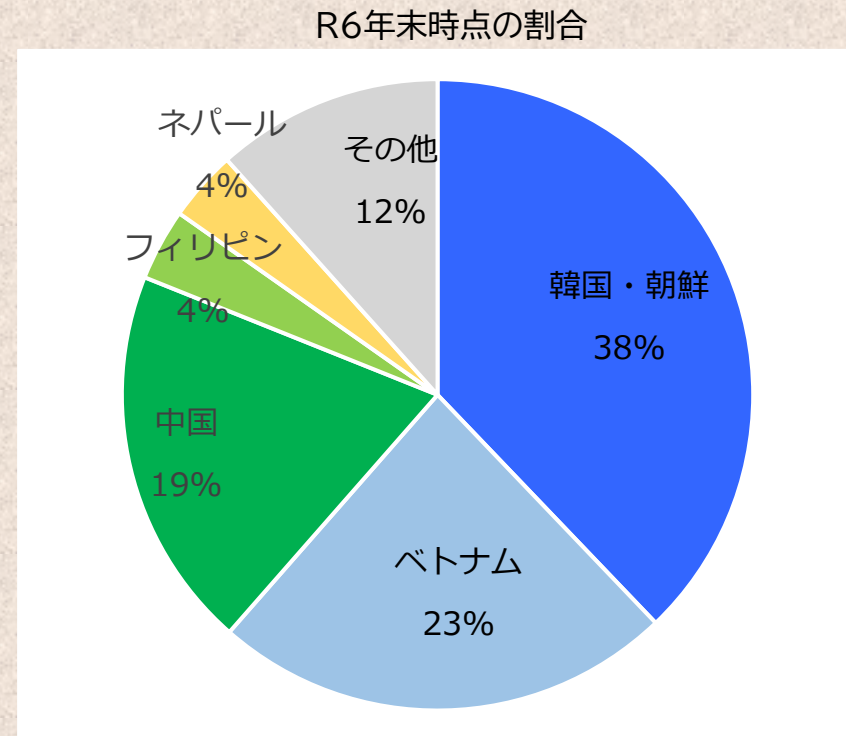
人口は減っているのに「世帯数」は増えているんだね
そういえば、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいる友達が減った気がするなあ



11. 「外国人住民」の国籍別割合

資料：東大阪市統計書
※各年末時点

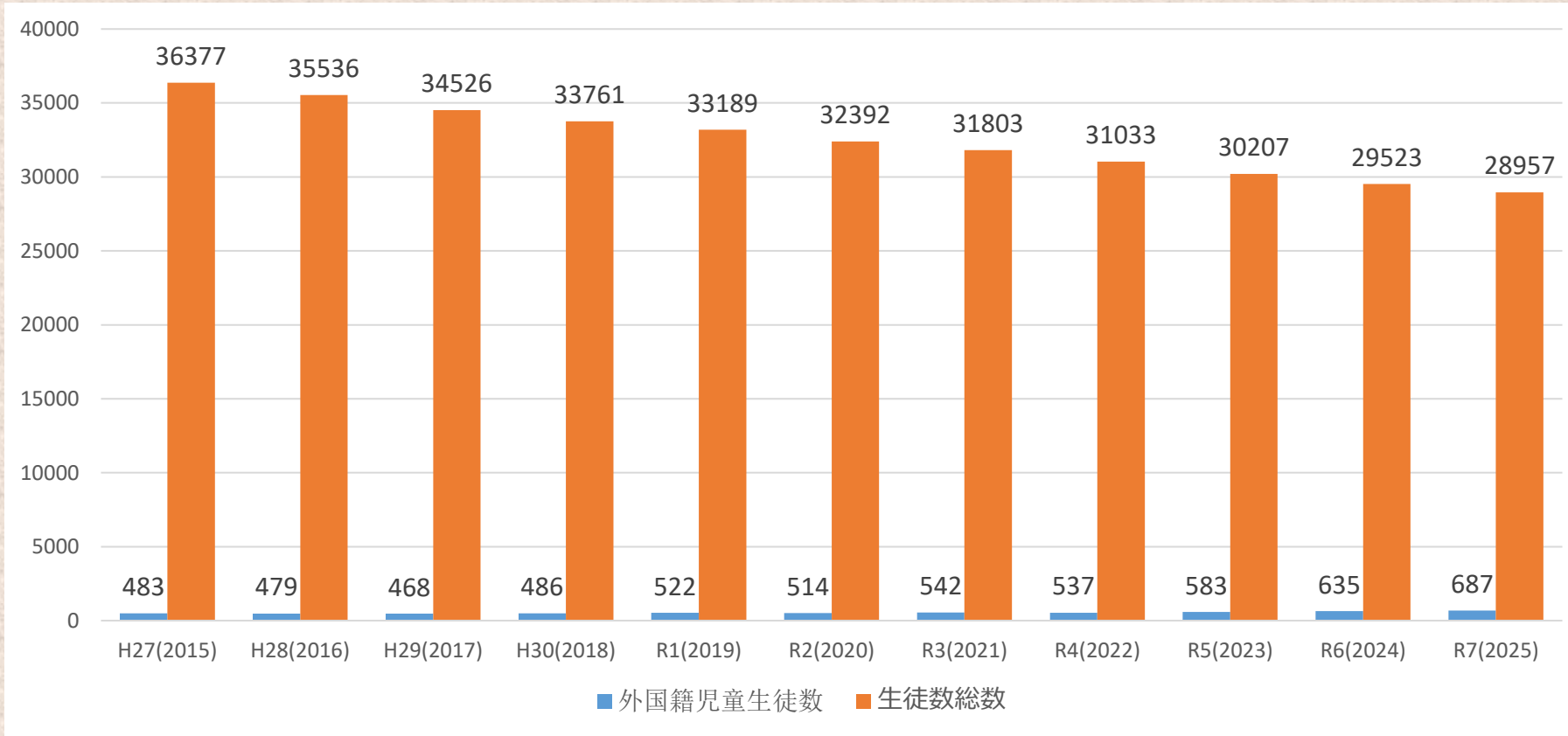
	R2(2020)年	R3(2021)年	R4(2022)年	R5(2023)年	R6(2024)年
韓国・朝鮮	9,480	9,144	8,876	8,632	8,462
ベトナム	3,079	3,343	3,818	4,512	5,278
中国	3,908	3,727	3,906	4,015	4,384
フィリピン	589	629	662	739	822
ネパール	183	221	450	614	810
その他	1,483	1,376	1,666	2,102	2,599
総数	18,722	18,440	19,378	20,614	22,355



外国人住民の人口は令和6年末時点で22,355人となっています。令和3年以降、外国人住民の人口は増加傾向にあります。国籍別にみると、令和5年にはベトナムと中国が逆転し、「韓国・朝鮮」、「ベトナム」、「中国」の順となっています。

12. 「外国籍児童生徒数」の推移(市立小学校、中学校、義務教育学校(夜間学級除く))

※各年5月1日時点



市立小中学校等の「外国籍児童生徒数」と「生徒数総数」を示したグラフになります。
 生徒数の総数は減少傾向にありますが、一方、外国籍児童生徒数の数は年々微増傾向にあります。
 国籍別にみると、「中国」、「ベトナム」、「韓国」の順に割合が多いものとなっています。

◎国籍別児童生徒数 (令和7(2025)年)

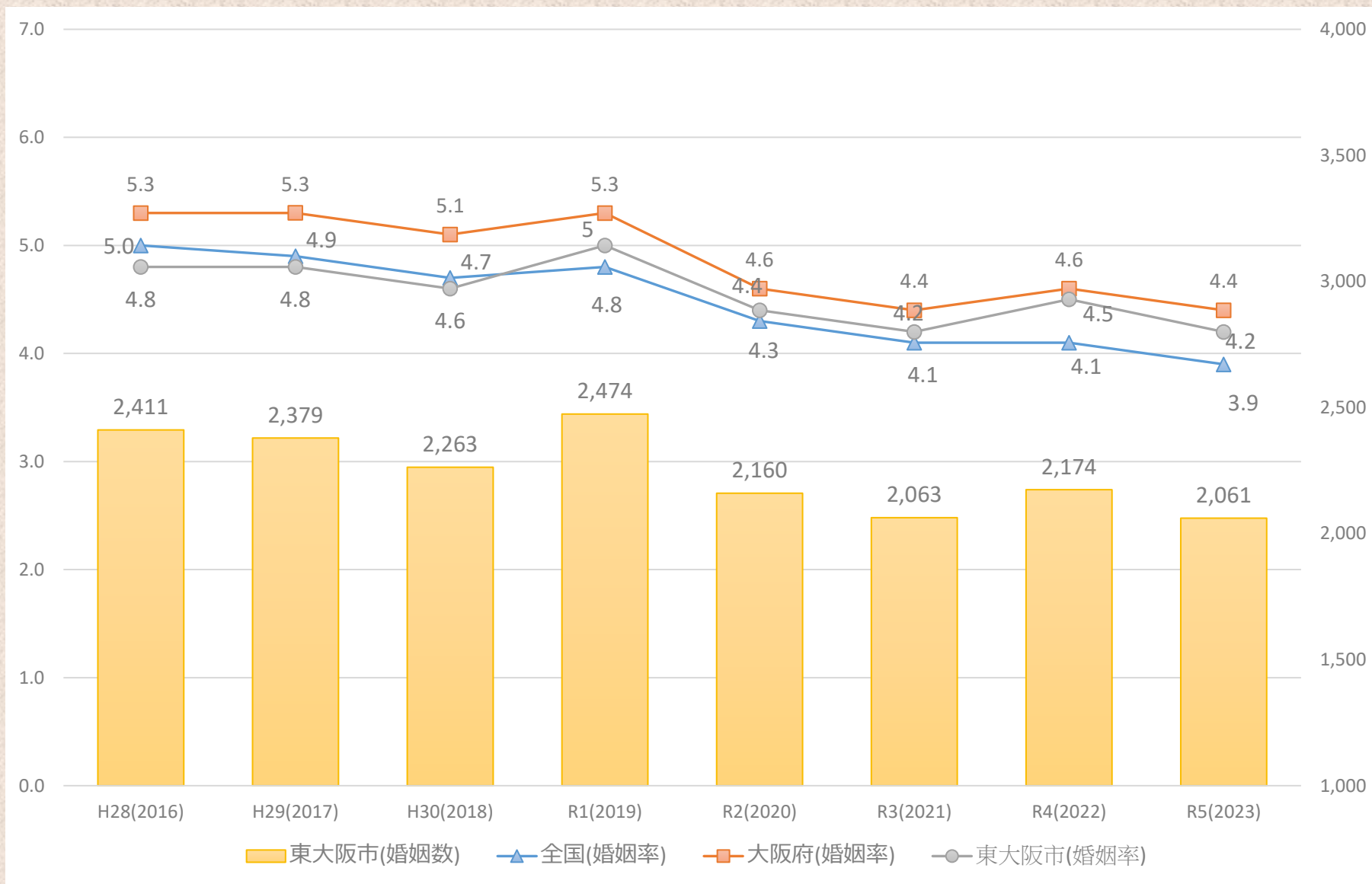
国籍地域	小学校	中学校	計
中国	203 (41.6%)	90 (45.2%)	293 (42.6%)
ベトナム	154 (31.6%)	39 (19.6%)	193 (28.1%)
韓国	48 (9.8%)	31 (15.6%)	79 (11.5%)
フィリピン	24 (4.9%)	15 (7.5%)	39 (5.7%)
ネパール	15 (3.1%)	5 (2.5%)	20 (2.9%)
その他	44 (9.0%)	19 (9.5%)	63 (9.2%)
合計	488	199	687

学校でも外国人の友達が増えたなあ
 みんなと仲良く会話ができるように
 外国語を覚えようかなあ



13. 「婚姻数」と「婚姻率」の推移

資料：大阪府人口動態調査

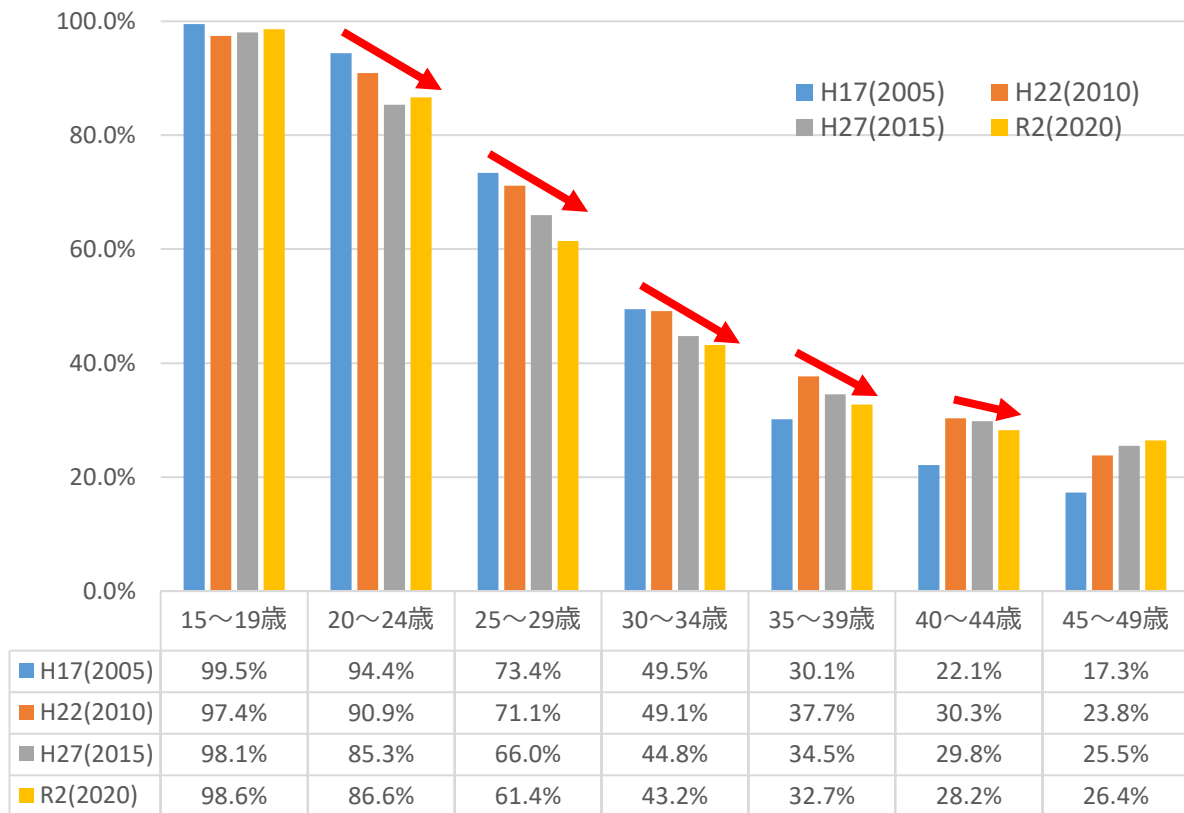


東大阪市の「婚姻数」と「婚姻率」を示したグラフになります。「婚姻率」とは人口1,000人あたり、何組結婚したかを表す指標になります。令和5年をみると、東大阪市では、1,000人あたり、4.2組が結婚していることとなります。東大阪市の「婚姻率」は、全国よりも高い状況となっています。

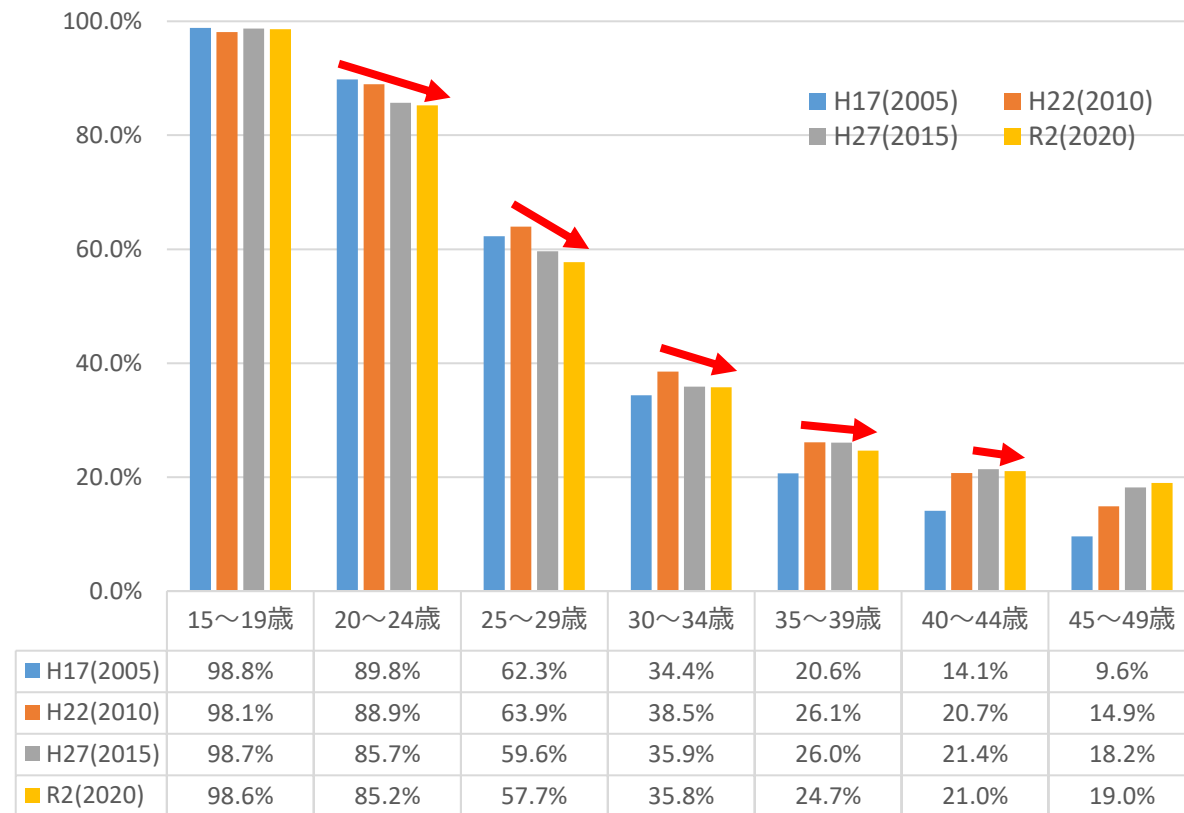
14. 「未婚率」の推移

資料：国勢調査

未婚率（男性）



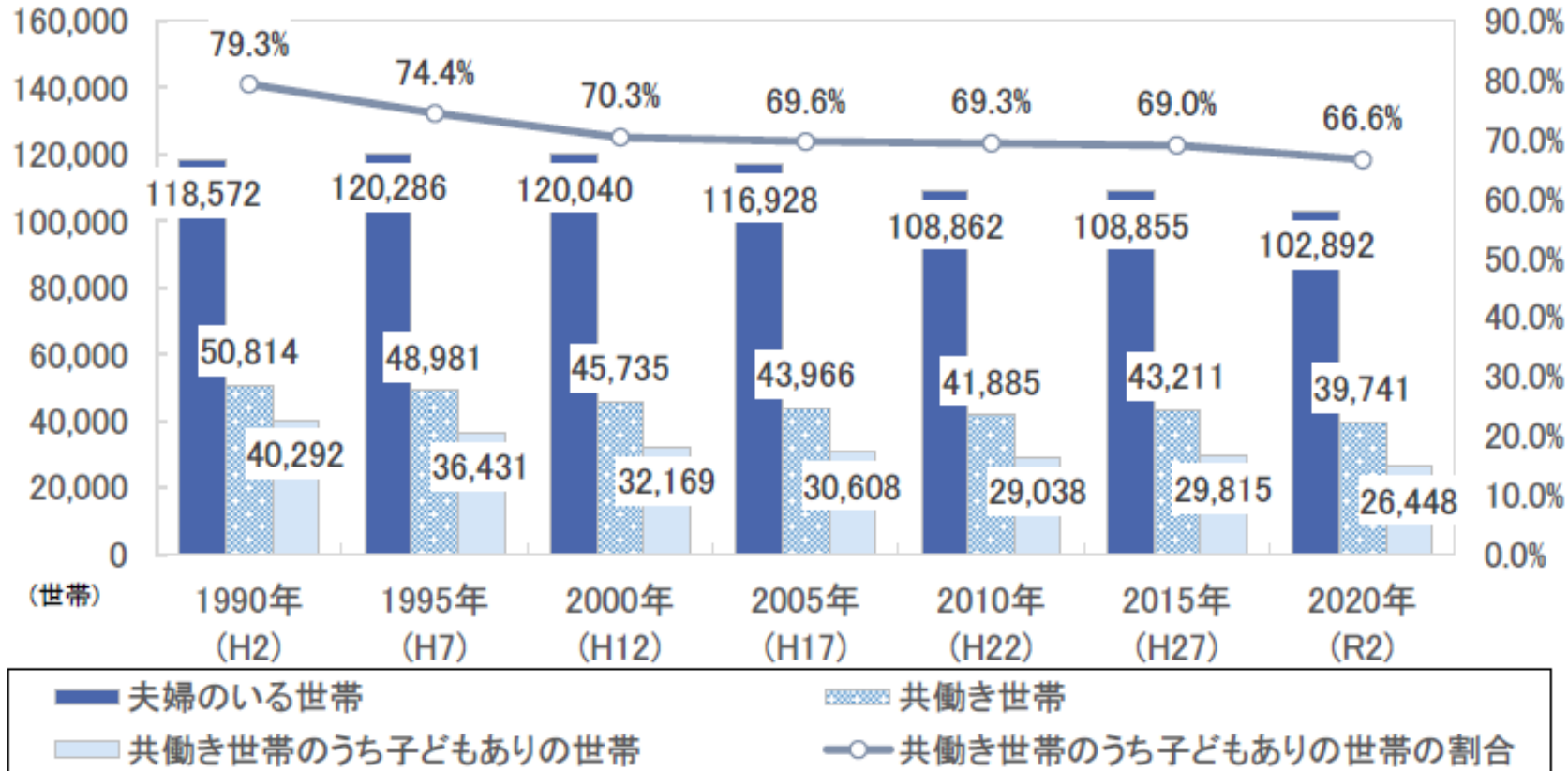
未婚率（女性）



東大阪市の男性と女性別の「未婚率」を示したグラフになります。

「未婚率」とは結婚していない人の割合を表す指標になります。未婚率が低いほど、結婚している人が多いことになります。

【共働き世帯の状況の推移】

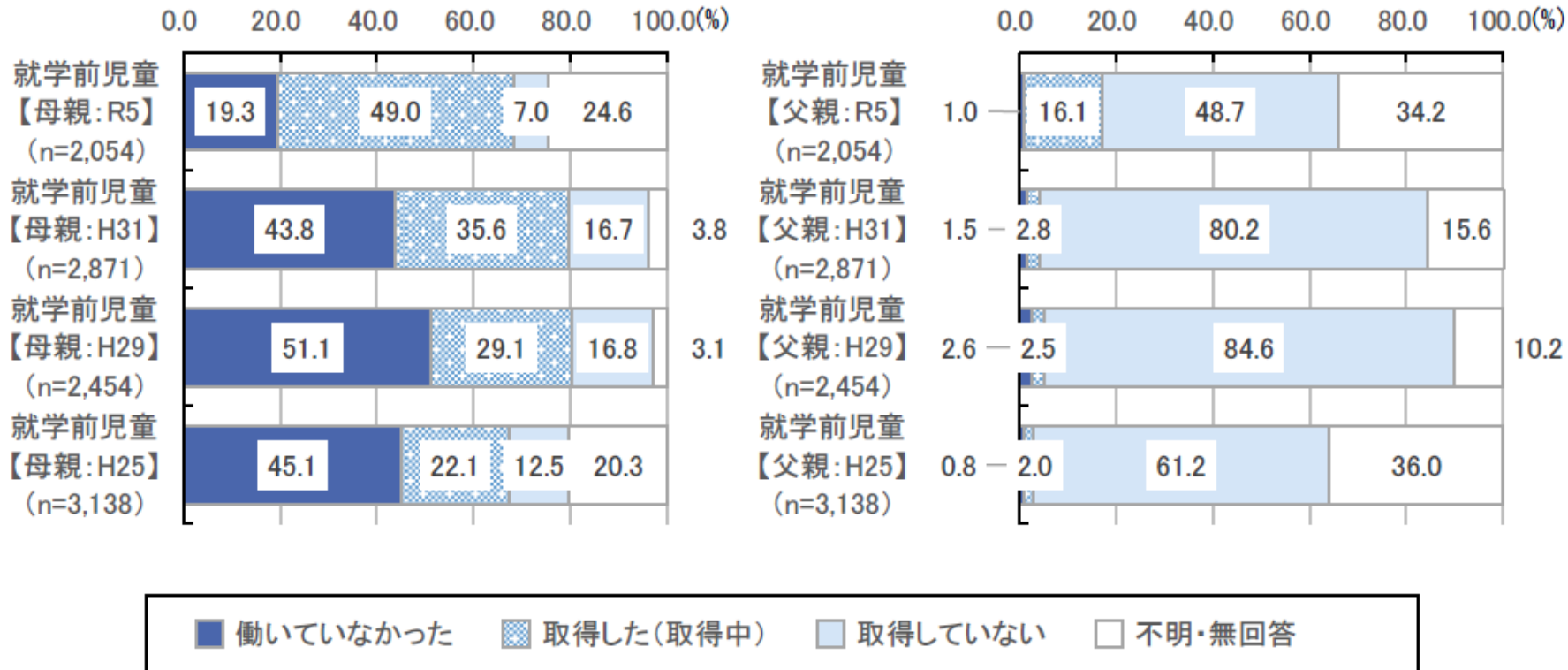


共働き世帯数の推移を見ると、平成17年以降おおむね横ばいとなっています。

共働き世帯については、全国的に見ると増加傾向であるものの、本市は減少しており、令和2年は26,448世帯となっています。

共働き世帯の減少は大阪府、大阪市でも同様の傾向がみられます。

■育児休業制度の利用状況



育児休業の取得状況は年々増加しており、令和5年の「取得した(取得中)」の割合は父親で16.1%、母親で49.0%となっています。国においても男女ともに育児にかかわる社会への転換をめざす政策を進めています。

お父さんが育児のためにおやすみをとる家庭も増えてきたなあ



■ 不登校者数（市立）

令和5年度：小学校 458人、中学校 705人 合計 1,163人

令和6年度：小学校 475人、中学校 826人 合計 1,301人

■ いじめ件数（市立）

令和5年度：小学校 1,456件、中学校 899件 合計 2,355件

令和6年度：小学校 1,320件、中学校 929件 合計 2,249件

■ 児童虐待対応件数

令和5年度：1,552件

令和6年度：1,703件

■ ひきこもり数（15歳～64歳人口(令和7年10月1日時点)の2%*で推計）：約6,030人

※令和6年10月1日現在の市内関係機関での実支援人数は372人

*内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」より

■ 自殺者数

令和5年：66名（30歳未満14名うち2名が20歳未満）

令和6年：63名（30歳未満 9名うち2名が20歳未満）

資料：「大阪府内の各市町村における自殺の状況」HP

■生活保護の対象

令和6年3月末時点：世帯数：13,151（うち母子世帯数：594）、被保護者数：16,243

令和7年3月末時点：世帯数：13,122（うち母子世帯数：528）、被保護者数：16,031

■ひとり親家庭医療の対象

令和6年12月末時点：世帯数：3,590世帯

（対象者数 ひとり親：3,590人 ひとり親の子：5,563人）

令和7年12月末時点：世帯数：3,453世帯、

（対象者数 ひとり親：3,453人 ひとり親の子：5,349人）

■就学援助の対象者数

令和5年度：小学校3,746人 中学校1,974人

令和6年度：小学校3,496人 中学校1,873人

■障害者手帳所持者数

令和5年4月1日時点

身体障害者：18,197人（うち 0～17歳 282人、18～39歳 801人）

知的障害者：5,018人（うち 0～17歳 1,290人、18～39歳 2,092人）

精神障害者：5,912人（うち 0～17歳 297人、18～39歳 1,499人）